

PMDA 医療安全情報

(独)医薬品医療機器総合機構

pmda No.34 2012年10月

グリセリン浣腸の取扱い時の注意について

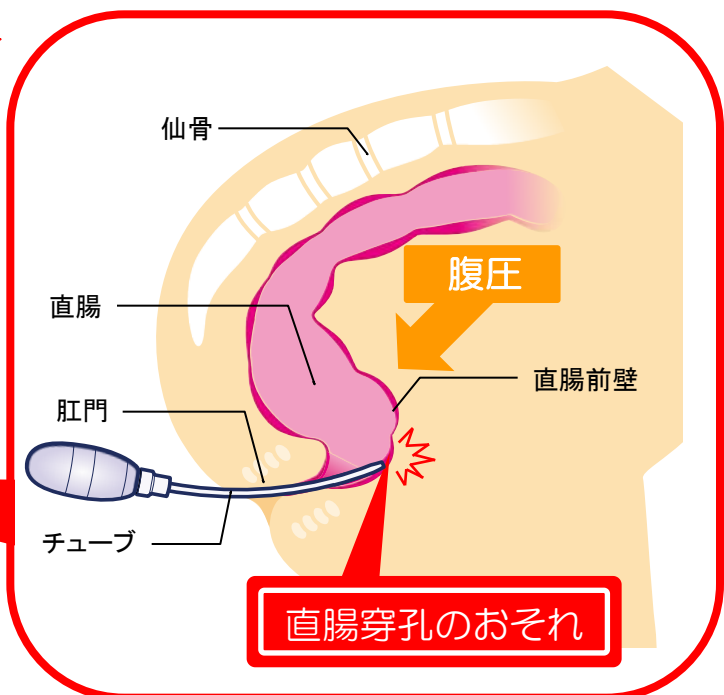
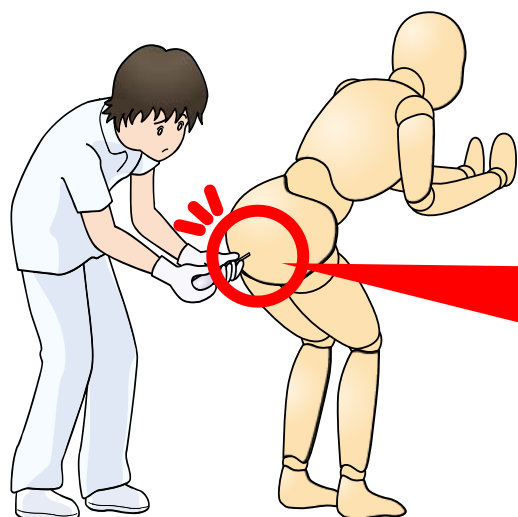
POINT 安全使用のために注意するポイント

(事例1) 検査前処置のため、立位でグリセリン浣腸を行った際、浣腸チューブの先端で患者の直腸を穿孔させてしまった。

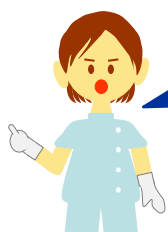
1 浣腸時の注意点 (1)

- 立位による浣腸処置時は、直腸穿孔の危険性に注意すること。

立位による浣腸は危険！



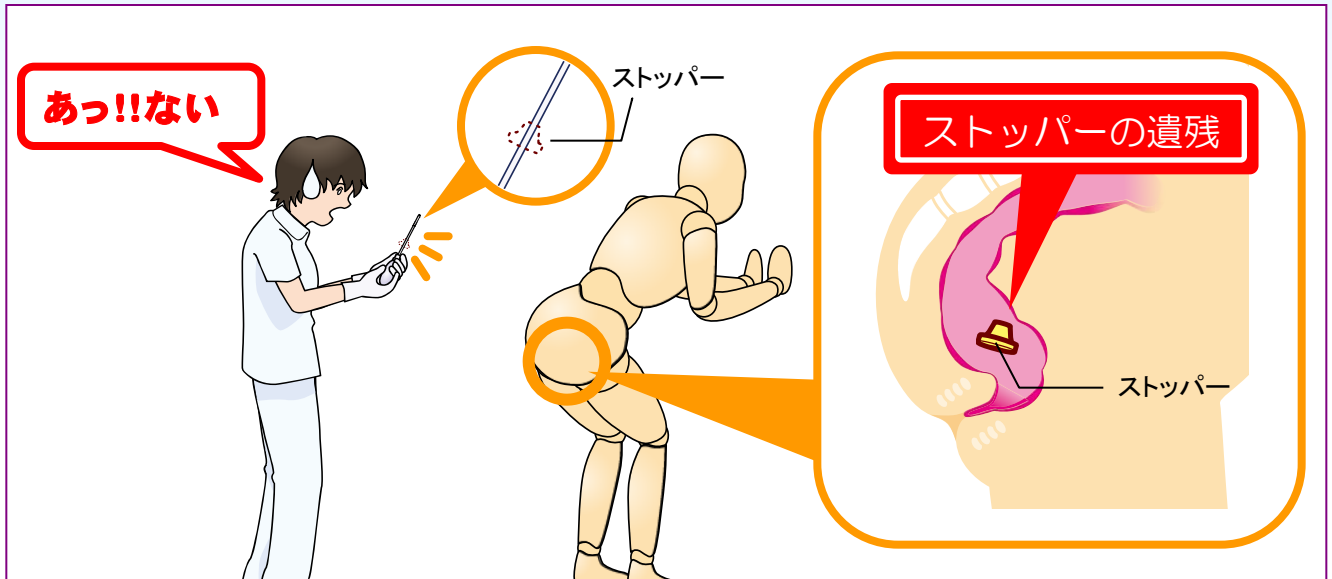
特に立位では、お腹に圧力がかかり、直腸前壁の角度が鋭角になるため、チューブの先端が直腸前壁にあたりやすく、穿孔する危険性があります！
また、立位では、肛門の確認がしにくく、チューブの挿入が目視できない危険性もあります。



(事例2) 検査前処置のため、グリセリン浣腸を行った際、ストッパーが直腸内に遺残してしまった。

2 浣腸時の注意点 (2)

- 浣腸時は、ストッパーが直腸内に入り込まないように、目視しながら行うこと。



これまでにストッパーが直腸内に遺残してしまったとの事故が約40例報告されています。浣腸時には、ストッパーを直腸内に押し込まないように、よく観察しながら行って下さい。

ストッパー付きグリセリン浣腸製剤の一例

日医エフーマ(株)



グリセリン浣腸「オヲタ」60 他

健栄製薬(株)



ケンエーG浣腸液50% 他

ムネ製薬(株)



グリセリン浣腸「ムネ」60 他

東豊薬品(株)

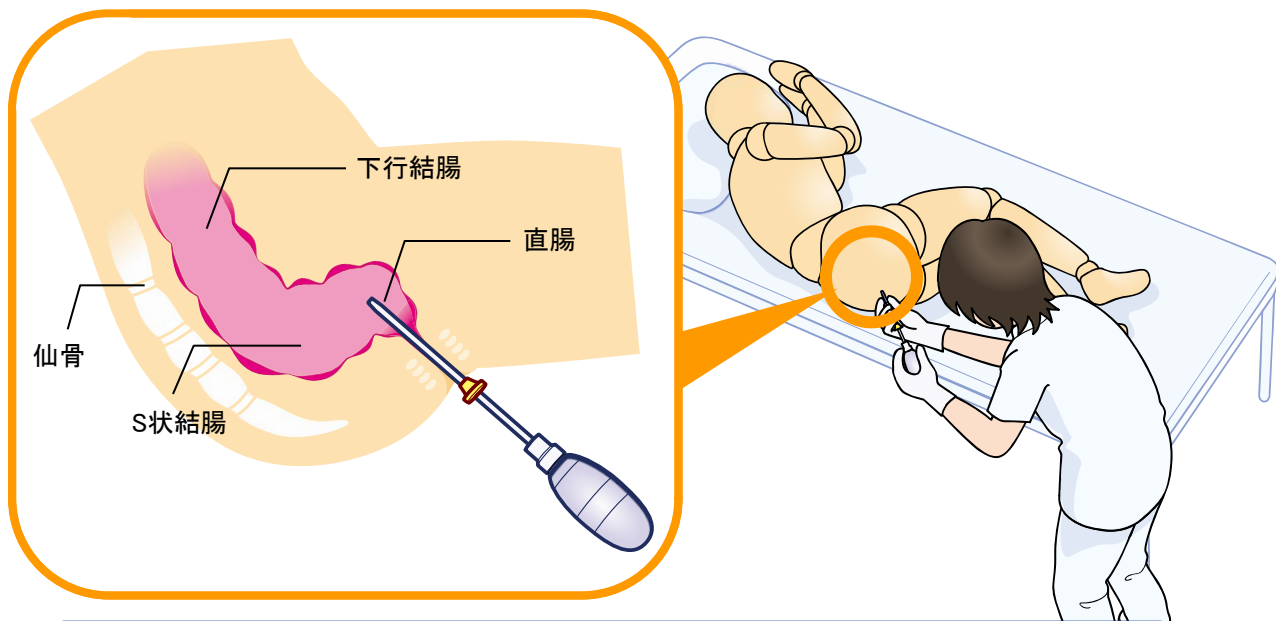


グリセリン浣腸50%「東豊」 他

3 浣腸時の姿勢等について

- 浣腸の際は、できるだけ左側臥位により慎重に行うこと。

左側臥位による浣腸



結腸の解剖学的な特徴から、浣腸時の体位は、左側臥位が最も適当です。また、チューブの挿入する長さは、目安として5~6cmとされていますが、抵抗を感じたら無理に進めず、少し引き戻しましょう。（直腸壁にあたっている可能性があります！）



★ グリセリン浣腸の取扱い時の注意については、以下の職能団体等からも安全性情報が出ています。

- ・ (社) 日本看護協会 医療看護安全情報「立位による浣腸実施の事故事例（2006年3月3日）」
<http://www.nurse.or.jp/nursing/practice/anzen/anzenjoho.html>
- ・ (社) 神奈川県看護協会 患者安全警報「No.6 安全なグリセリン浣腸の実施について（2006年8月30日）」
<http://www.kana-kango.or.jp/taisaku/index2.htm>

本情報の留意点

- ＊ このPMDA医療安全情報は、財団法人日本医療機能評価機構の医療事故情報収集等事業報告書及び薬事法に基づく副作用・不具合報告において収集された事例の中などから、独立行政法人医薬品医療機器総合機構が専門家の意見を参考に医薬品、医療機器の安全使用推進の観点から医療関係者により分かりやすい形で情報提供を行うものです。
- ＊ この情報の作成に当たり、作成時における正確性については万全を期しておりますが、その内容を将来にわたり保証するものではありません。
- ＊ この情報は、医療従事者の裁量を制限したり、医療従事者に義務や責任を課したりするものではなく、あくまで医療従事者に対し、医薬品、医療機器の安全使用の推進を支援する情報として作成したものです。